

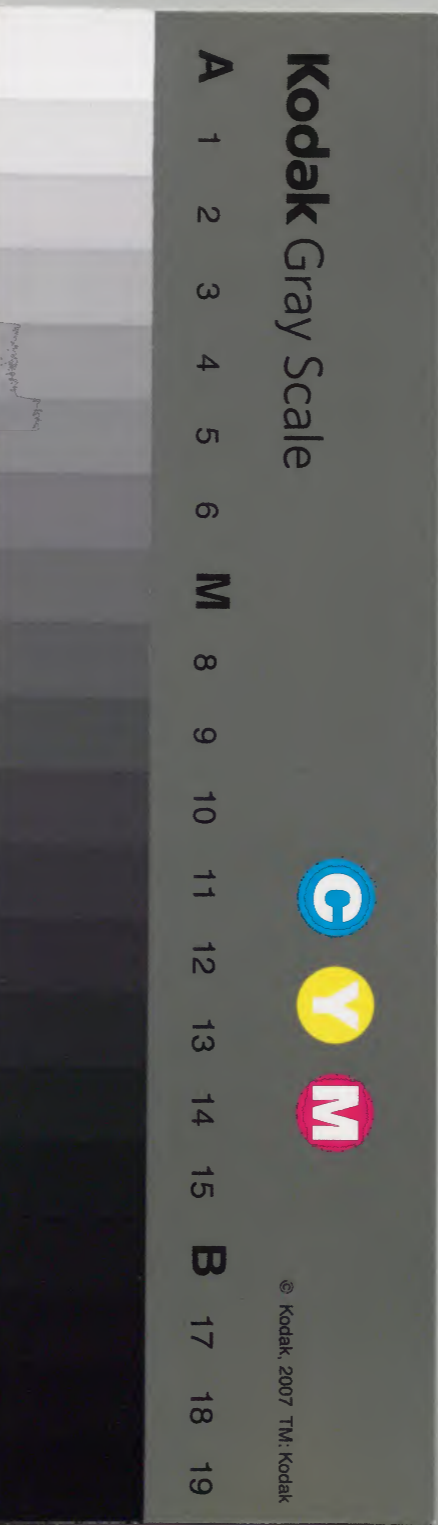
大鏡

七

和書門類			
二七九七三號	八七函	七架	八册

内閣文庫			
二七九七三號	八册	二架	和書類

内閣文庫	
番號	和 27973
册數	8 (7)
函號	138 22



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

大鏡卷之第七目錄

太政大臣 道長



明治十三年購求



鎌足 — 不比等 — 房前 — 真楯 — 内磨

冬嗣 — 長良 — 基經 — 忠平 — 師輔

兼家 — 道長

東寺 直斗

今 陽 身 身

基 基

法 法

法 法

法 法

法 法

法 法

法 法

大 大

大 大

一太政大臣道長^りは^り法興院^りに^り乃^り師^り也^り男^り也^り母^りは

宮^り上^り仍^り接^り傳^り守^り右^り亦^り冬^り夫^り有^り京^り中^り正^り卿^り長^り女^りなり

ら^り此^り朝^り臣^り二^り位^り中^り納^り言^り山^り陰^り郷^り七^り男^りあり^り此^り道^り長

大^り長^り也^り今^り入^り道^り教^り下^りあれ^りに^り南^りと^り一^り条^り院^り三^り条

院^りの^りなり^り當^り代^り東^り宮^りの^り所^りあり^りそ^りお^りも^りい^りは

教^り宰^り相^りは^りけ^りな^りり^り給^りは^り也^り永^り延^り二^り年^り正^り月^り廿^り九^り日^り持^り中

納^り言^りは^りな^りり^り給^りは^り也^り一^り廿^り日^りの^り上^り東^り門^り院^りに

あ^りる^り給^りは^り也^り正^り曆^り二^り年^り九^り月^り七^り日^り大^り納^り言^りは^りあ^りる^り也^り給^りは^り也^り

正^り曆^り三^り年^り四^り月^り廿^り七^り日^りに^り二^り位^りに^り給^りは^り也^り中^りに^りあ^りる^り也^りと^りを

甲^り一^り法^りと^りに^り給^りは^り也^り七^り日^りに^り給^りは^り也^り給^りは^り也^り給^りは^り也^り

長^り祿^り元^り年^り己^り未^り四^り月^り廿^り七^り日^りに^り給^りは^り也^り給^りは^り也^り給^りは^り也^り

イ教の

流行病めて

其と一其まへより。其申さるめてさうがたり
 一のさうりかへりきりきりきりきり
 まのち大長公くろくわう心あがりて接臨ひりて
 立位乃かたけりきりきりきりきり
 へるあたる乃御まがらひ平。因院大納おほなひきる三月廿八日申まがらひ園
 白教四月六日しちがつちあへりて十日うせ給ひぬまきけ
世の夜よのえよはおんりてあきけあひおのりてむすれり
 あし給するりてまらるるもふ一糸た大将おほし海内うみうちのあひ
 月廿二日う接臨し。六条た大長後重あつひ信あつひあま回右大臣
 教道兼おしごの挑おしごの園おしごの源おしごの中おしごの御おしごの之おしごの保おしごの亮おしごの心おしごのあ乃おしごの二人を五月八日
 度よりせ給ふ。山井大納やまのい之の教をちみらりと申す。

六月十一日そりて。本年二十五年そりて又あり
 甲申年四月廿八日。二月廿九日。三月廿九日。四月廿九日。五月廿九日。六月廿九日。七月廿九日。八月廿九日。九月廿九日。十月廿九日。十一月廿九日。十二月廿九日。

長宗
顯信
能合
源公

女房よしの志よらん 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
くまひまふとそなるはあはらあて 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
かふのれも 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
し 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
我もく 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
せ 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
え 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
取男老 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
小一 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
村上の 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
将師房 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん

なる 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
ふえぬ 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
キ 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
い 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
又 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
今 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
君 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
ひ 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
ひ 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
ひ 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん
ひ 下人 女房よしの志よらん女房よしの志よらん

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 25 vertical columns of characters. The text is written on aged, slightly yellowed paper. The characters are dense and fluid, typical of the cursive style used in historical documents. The text appears to be a continuous passage, possibly a letter or a section of a larger work. The right page shows the beginning of a line that continues onto the left page.

湯門猪馬頭の物より一りてきりたる人をせむせむ

かみれ相打ちくちりたる人へのきりたる人へのきりたる

のしやうにたれど歌中將十九りしをなかりたりと

ともしけりしけれんもさしとてしりしきりたる人への

きりたる人へのきりたる人へのきりたる人へのきりたる

相人なりし人のきりたる人へのきりたる人へのきりたる

やうきりたる人へのきりたる人へのきりたる人への

もろろりたる人へのきりたる人へのきりたる人への

たきてしきりたる人へのきりたる人へのきりたる人への

いんごりたる人へのきりたる人へのきりたる人への

まゝりたる人へのきりたる人へのきりたる人への

きりたる人へのきりたる人へのきりたる人への

ともしけりしけれんもさしとてしりしきりたる人への

ともしけりしけれんもさしとてしりしきりたる人への

ともしけりしけれんもさしとてしりしきりたる人への

ともしけりしけれんもさしとてしりしきりたる人への

ともしけりしけれんもさしとてしりしきりたる人への

ともしけりしけれんもさしとてしりしきりたる人への

ともしけりしけれんもさしとてしりしきりたる人への

ともしけりしけれんもさしとてしりしきりたる人への

ともしけりしけれんもさしとてしりしきりたる人への

ともしけりしけれんもさしとてしりしきりたる人への

ともしけりしけれんもさしとてしりしきりたる人への

なり。まら文乃^{張京}未^{仕任}まはる。中言指^{仕任}未^{仕任}まはる。これ大納言一

一。治路ひりあり。これいかにいふ事ありてきたり。か

路りんと。御月え一。御月と。其大御尊のまかり。これいふ

も。御尊のなまき。ぞえり。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

と。御尊のなまき。かどなまき。かどなまき。御月あり。か

てはひひしうさりかんとしておぼくはまき春日宮

^三ゆきけは乃一条院の御方なりけり法文の御方なりけりまきまきぞく

くまは代三くちあめくおつ三まきまきぞく

あふへきまき三まきまきぞく

まきまきぞく

まきまきぞく

まきまきぞく

まきまきぞく

まきまきぞく

まきまきぞく

まきまきぞく

まきまきぞく

まきまきぞく

まきまきぞく

まきまきぞく

まきまきぞく

まきまきぞく

まきまきぞく

まきまきぞく

まきまきぞく

まきまきぞく

まきまきぞく

まきまきぞく

備忘

まきまきぞく

市二魚

くまのりなま 上
くまのりなまのびくろくまのま日野乃

おきりみらめとたつひゆくじ

あやうよやあまし寝給ふがどのもふくときあえ

てめぐたくゆるりなうあたま乃あそり

らんさおれりてそきろふいそのりか

物るまみもさ乃たよきうひく

あましをふおさあぶぶかをよまぬもやあがりく

もあぶくりれ秀予えさうりうれりふとりて

春日明神乃のせ給へりけあとおりえ侍のま

あはれまぶともりくあふるさそお一乘院の

ああも大入道教乃乃幸申をさあま寝給ひをり

あまのさくらえく礼侍まかむけいさいつひあ

まうん人乃あうのみらとくれ給ひつらんああ

まなくや侍りまういげ教をむを給ふふあ

あうれまあとおほをくれくあまはらやせ給

ひくせめお改は乃はあまよもや給へり

あうさりりちさりあまいていあ

あうろあぐらららん

又これ一あま乃ひまれおりあまきあ

一あひの目たまやせま寝たまうり夜の

まうせ給へりあうれりあまひあ

あまのりなま 上
あまのりなまのびくろくまのま日野乃

あまのりなま 上
あまのりなまのびくろくまのま日野乃

おしひりしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

^{研子}まよふなうふあなひとあかみの

あやうやぞうけたまらるゝしてらうくえこりあ

糸大細言乃公任くかなあまよもぬれあぶくおわ

りやうのくと犬入道教心持水づぞかくれんぐやま

あやうれいご子ごれうびこあゆむべくとあ

こえくちたれられ送院てせんけいこうまを中國自

あやう教あむはきふもやもがすんとらん

ああはあきしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

のさうりうりあしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

ああはあきしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

ああはあきしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

ああはあきしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

ああはあきしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

ああはあきしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

ああはあきしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

ああはあきしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

ああはあきしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

ああはあきしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

ああはあきしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

ああはあきしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

ああはあきしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

ああはあきしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

ああはあきしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

ああはあきしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

ああはあきしんぐまゝにゆゑぬわさうていあき

てまのまをせしむるなりかなむかひの
舞人ともうよむらりあんとおかせられ
えはうらやまのちりひくる後入道教
しるもゆりあんとおかせられだ
りまのびかんかきくけうあるま
いつけみちきうの豊樂院道兼仁壽殿蒼龍道長
大橋教へつけとわらせしきされだ
むんかきくけうかきくけうかきく
うけたらりあんとおかせられだ
ゆきなるとありたるよはせしき
かきくけうかきくけうかきくけ
かきくけうかきくけうかきくけ

よまされたるがらふ海軍一人昭慶門ま
とあきられきくけうかきくけう
かきくけうかきくけうかきくけ
てはてしなくよきあきくけうか
まあきくけうかきくけうかきく
かきくけうかきくけうかきくけ
道長の義明門より出よきくけう
あきくけうかきくけうかきくけ
てありきくけうかきくけうかき
あきくけうかきくけうかきくけ

栗田教を露^ろ基^き乃^のとてし^まあ^くく^くお^りく^る。
よ。仁孝教の東面北^みさ^りのやぶ^ぶの^れと^びく^き人の
あ^るや^うい^から^しは^ひく^れた^もの^もた^げえ^るが^ん乃^の
き^うつ^ぶい^そお^りせ^きも^うけ^たり^うめ^しな^のの^く
く^まま^のう^まは^くま^じは^あく^たく^しう^り勢
給^ふよ^入道教^きら^とじ^んう^かこ^の勢^給も^あく^ら
く^とあ^りし^めす^やぶ^ぶお^ぞら^こた^りげ^あく^きよ^の
あ^らす^けし^まし^ら勢^給入^あく^ふく^とと^しせ^給く
じ^のの^やう^おは^くし^うけ^るの^なも^と
く^しし^きい^くや^くせ^給す^よお^あお^ぞと^あり^せ給
る^まじ^のあ^らし^うり^して^しん^証す^はら^ぬ

よ。た^はよ^しり^てき^らく^く其^かん^あお^りて^のは^し
勢^のり^しは^づり^くし^らし^てい^はる^まと^はま^のく^申
勢^よい^とい^はし^らに^がし^めは^ぶぶ^と後^きら^んは
勢^しら^しま^した^とあ^らす^てお^のあ^らく^てま^ら
ま^らへ^るよ^法門^しう^りし^めが^んの^きう^まら^ぬと。
う^しや^もう^しき^よも^やぶ^らあ^らる^もの^もの^もい^てぞ^い
は^ひく^るお^はく^しう^くは^りし^めは^れく^まじ^も義^人
し^てげ^りく^しは^くし^てん^しと^おり^せき^{あり}
く^まじ^をし^てら^んく^んさ^しう^いは^れは^ばも^たが^んが^わ
く^りぞ^のく^りく^いま^いと^さん^やう^とて^はり^然
こ^しす^らし^よも^あん^く人^いは^ばあ^らぬ^しき^まは

しむる—ききえんさ勢法くをけしむはめくもあやし

が—あやめちぢく^{道法}神^{五、伊國}あやめちぢく

とせしむる勢法ひく^{道法}あやめちぢく入道教や

しを^{道法}あやめちぢく勢法ひくあやめちぢく

申しゆ^{道法}あやめちぢく勢法ひく

—り^{道法}あやめちぢく勢法ひく

な^{道法}あやめちぢく勢法ひく

よりあやめちぢく勢法ひく

溜^{道法}あやめちぢく勢法ひく

—り^{道法}あやめちぢく勢法ひく

—り^{道法}あやめちぢく勢法ひく

—り^{道法}あやめちぢく勢法ひく

—り^{道法}あやめちぢく勢法ひく

—り^{道法}あやめちぢく勢法ひく

—り^{道法}あやめちぢく勢法ひく

—り^{道法}あやめちぢく勢法ひく

—り^{道法}あやめちぢく勢法ひく

—り^{道法}あやめちぢく勢法ひく

—り^{道法}あやめちぢく勢法ひく

—り^{道法}あやめちぢく勢法ひく

—り^{道法}あやめちぢく勢法ひく

とていふに人々もあつていふに、
日徳の天皇帝

いふに、あつていふに、
入道教も

いふに、あつていふに、
使なまき事

いふに、あつていふに、
あつていふに、

いふに、あつていふに、
あつていふに、

いふに、あつていふに、
あつていふに、

いふに、あつていふに、
あつていふに、

いふに、あつていふに、
あつていふに、

いふに、あつていふに、
あつていふに、

いふに、あつていふに、
あつていふに、

いふに、あつていふに、
あつていふに、

いふに、あつていふに、
あつていふに、

いふに、あつていふに、
あつていふに、

いふに、あつていふに、
あつていふに、

いふに、あつていふに、
あつていふに、

いふに、あつていふに、
あつていふに、

いふに、あつていふに、
あつていふに、

いふに、あつていふに、
あつていふに、

いふに、あつていふに、
あつていふに、

いふに、あつていふに、
あつていふに、

いふに、あつていふに、
あつていふに、

いふに、あつていふに、
あつていふに、

九年四月十七日より被給ひしより

一房にあはしる。宰相。四男。美楯。大納言。梅津。天守。北河。

天平。神護。二年。二月十六日より。被給ひし。由。年。三。二。公。

御。より。七。年。 年中。仍。年。十二日。に。せり。あり。

一真楯。大納言。二郎。右。大。右。二。位。左。近。衛。大。右。内。膳。大。右。

御。年。以。十。七。公。御。由。て。廿。年。大。右。位。一。及。七。年。贈。給。一。

位。右。大。右。楯。武。天。守。平。城。天。守。二。代。よ。あ。い。給。へ。り。

一内。膳。大。右。乃。三。郎。冬。嗣。大。右。右。大。右。ま。て。な。り。給。

へ。り。贈。太。政。大。右。一。の。為。よ。り。被。給。ひ。し。由。年。一。と。あり。

冬。嗣。大。右。乃。右。郎。長。良。中。納。言。是。贈。太。政。大。右。ま。て。

な。り。給。へ。り。ま。た。是。乃。由。一。の。由。に。一。に。あ。り。給。へ。り。

御。を。傳。へ。く。や。し。く。う。被。給。ひ。し。一。に。冬。嗣。の。節。に。は。

む。ぎ。ふ。ん。が。さ。く。り。給。へ。り。ま。た。一。に。源。氏。の。ま。と。ま。さ。

ま。は。く。大。右。乃。ま。は。わ。く。相。を。き。一。よ。お。た。た。せ。給。へ。ん。

ま。ん。じ。う。と。ま。ま。て。く。ま。六。乃。物。く。ま。ん。ま。へ。奉。り。給。へ。り。

て。被。給。ひ。し。由。に。一。千。卷。く。ま。う。一。に。給。へ。り。今。

よ。その。由。あり。し。よ。若。氏。の。入。り。と。り。て。ま。り。給。へ。り。

あ。い。給。へ。り。ま。た。佛。經。乃。ち。一。に。一。に。被。給。ひ。し。由。に。一。

に。一。に。被。給。ひ。し。由。に。一。に。被。給。ひ。し。由。に。一。に。被。給。ひ。し。

ま。た。被。給。ひ。し。由。に。一。に。被。給。ひ。し。由。に。一。に。被。給。ひ。し。

ま。た。被。給。ひ。し。由。に。一。に。被。給。ひ。し。由。に。一。に。被。給。ひ。し。

とよむ人しく尸とあり みまはし原氏の由は長長公のうらひ

長良大臣也二部。基經しげゆきはとくい太政大臣まてあり

たより

一 基經大臣也。忠平おとくい太政大臣まて成給ふ

一 忠平大臣二部。師補しほ大臣右大臣まて成給ふ

一 師補右大臣二部。兼源大臣太政大臣まて成給ふ

一 兼家大臣立部。道長大臣太政大臣まて成給ふ

一 道長大臣のら右大臣まて成給ふ。今乃関白右大臣頼通よりみち乃たよむ。

あれはたよむ海と。いふは乃成子れり。ておつ海と

ぶりははる。ていふは使つかはるなり。ていふは通方とほのま

まて成給ふ。なり。ていふは兼家かねのまて成給ふ。

兼家かねのまて成給ふ。なり。ていふは兼家かねのまて成給ふ。

り。おたき勝給ふ人。ていふは兼家かねのまて成給ふ。

ていふは兼家かねのまて成給ふ。なり。ていふは兼家かねのまて成給ふ。

ていふは兼家かねのまて成給ふ。なり。ていふは兼家かねのまて成給ふ。

ていふは兼家かねのまて成給ふ。なり。ていふは兼家かねのまて成給ふ。

ていふは兼家かねのまて成給ふ。なり。ていふは兼家かねのまて成給ふ。

ていふは兼家かねのまて成給ふ。なり。ていふは兼家かねのまて成給ふ。

ていふは兼家かねのまて成給ふ。なり。ていふは兼家かねのまて成給ふ。

ていふは兼家かねのまて成給ふ。なり。ていふは兼家かねのまて成給ふ。

ていふは兼家かねのまて成給ふ。なり。ていふは兼家かねのまて成給ふ。

ていふは兼家かねのまて成給ふ。なり。ていふは兼家かねのまて成給ふ。

ていふは兼家かねのまて成給ふ。なり。ていふは兼家かねのまて成給ふ。

まして。一系院乃由時よりおなやげまうりよりあるりてん
 なるも又通是太長乃由氏也。太長必多武峯よはけりてめ
 給ひてくづくふは骨とたそめん給ひてく。いまふ三昧をさ
 けしちちの子。不はる大長。山階寺と建立せしめん
 給へりてまふよりわりのちよははる氏とのち申すり。
 このみそしちあひひよあ氏也。春日大原野吉園よま
 りよだづひあやしき事にてちめまきたん。此寺は傍
 秘宣は自らやあしうし申てそのときを承長
 者居ししせしめ給ふ。此つとまある人きい年。此
 中給ふ教しちたらのしよふ。此相急とくたてく。一の
 ちりくづくしめ給ふ。おのこはちちよりけしきまら

くと一よ二三方金。此をさかてちる。三月八日より十
 月まで八省あきなり。かき傍と講師として此後金とま
 して。めちちわげよりちしめあ氏乃教たるこれく。此
 ちまうて三月七日よりちりて。十二日よて薬師寺
 て最勝會七日。又山階寺よて十月十日よて維摩會七
 日。このあましうれちとびよ勅使とてりて。ちまのりて
 有氏乃あしちるるちと立位よてさそくまうり給ふ。南
 法神ハニ余の講師しつてまは已講とあづきてそのま
 りよはけりて。律師僧理よたからちられ。は枝あさりの
 ちしちやび。ちのちとちりなり。づく。き飛道事
 ちあさ。ちのちとちまは。ちとち。ちのち。ちのち。

一 山階遺理
一 山階遺理...
又はひききて入さなり。后宮^{ウツノミヤ}のやうなるもののおひぢとか
しはへおたぐひをこさへおつて...
とけ申へりて

一 内大臣鎌足のかたはけ御女。二取置てこれ天武天皇
またさまつり給へり。おたか女をこられたる内務
とらんやとさうたせ給つたあり。りてか
一 贈大政大臣不吐等乃御女。二取置てこれ御
女を文武天皇の御乃女御とせしめ給へり。まこと聖
武天皇とす。母は光明皇后とす。まことひんりの

御女を御てけをひ乃聖武天皇よはひまき。女御とす。
まことまつり給へり。女帝よまことまつり給へり。
ありぞこの女帝とす。これおま。四十六代よあり給へり。
うまありたも入るよ。又かんよひとりといふて。又四十八
代よつり給へり。母は贈皇后とす。はまこま。
不吐等の大臣は御女二人あぐら。よれんよめまてい。高野
女帝乃御母は贈皇后と申。つておたか。御さるよ
一 高野小お給へり。とらんこま。かつらん。よは不吐等の大臣
まことおま。又贈皇后は御乃御女。天武天皇。并高野
女帝の御母はら。或本又さ。御女帝御母はら。つておたか。よは御女とす。
高野小お給へり。とらんこま。かつらん。よは不吐等の大臣
まことおま。又贈皇后は御乃御女。天武天皇。并高野
女帝の御母はら。或本又さ。御女帝御母はら。つておたか。よは御女とす。

一 大政大臣冬嗣乃御_とく_は皇太后順子乃御_と又_は文徳天皇の御祖父

一 大政大臣良房乃御_とく_は皇太后官明子の御祖父

一 贈大政大臣長良乃御_とく_は皇太后官文子乃御祖父

一 陽成天皇乃御祖父

一 贈大政大臣繼乃御_とく_は皇太后官澤子父孝天皇乃御祖父

一 大政大臣基經乃御_とく_は皇太后官穗子父朱雀天皇并村上帝乃御祖父

一 右大臣師輔乃御_とく_は皇太后官安子父冷泉院并圓融院御祖父

一 大政大臣伊尹乃御_とく_は皇太后官懷子父花山院并御祖父

一 大政大臣兼家乃御_とく_は皇太后官文治子并贈后父并三条天皇并三条天皇御祖父

一 大政大臣道長乃御_とく_は皇太后官彰子并東門院皇太后官妍子中宮威子尚侍姪子乃御_とく_は皇太后官の御祖父

一 皇太后乃御祖父

一 皇太后乃御祖父

内大臣
大納言

入道教長家より卯よきあえさせ給りごめり。関白内大臣大納言

言二人中納言の返りやして長家も申さるやききり

りあつたよ。日本國へは准し無二しなり。もみきり

けく。め給つる法堂なごのありさぬ。僅是乃に

乃多武峯。不比等大臣乃山階也。基師乃にし此格東

寺。忠平のおく。此法性也。九条教ついでん標嚴院。あめみり

のほり給へ。東大寺之佛ふつなり。いさういさうハおつり

に。いさういさうめききり。なほなほいさういさう無量壽むりやうじゆ考かうハななひ給へ

と。中ちゆうていていのちくちくハいさういさうききり。大安寺は都

率りつ天乃一院也。天竺てんてく乃乃祇園精舎ぎえんしやうが。いさういさうけくけくききり。天

竺てんてく祇園精舎ぎえんしやうがなり。乃西明寺にいさうけく

く。西明寺さいめいじ一院也。あのみり。大安寺に

いさういさうめ給へ。あなあなりきり。あまあまいさういさういさういさうハこれ

無量壽院むりやうじゆいん中ちゆうのり給へ。南京なんきやうことことおわりのまに

もなほああななり。恒徳こんてく乃乃法性ほふしやう也。いさういさうなほなほ

かかとといさういさう考かう院いんもも給へ。難波なんぱ乃乃天王寺てんわうじがが聖せい

徳とく太子たいしははああ海かいへへ入いりり給へ。いさういさう考かう院いんもも給へ

いさういさう考かう院いんもも給へ。七しち大寺だいじ十じゆ五ご大寺だいじななららいいんんくく給へ

なほああのの無量壽院むりやうじゆいんいさういさう考かう院いんもも給へ

ああららいいれれよよけけるることこといいさういさう考かう院いんもも給へ

いさういさう考かう院いんもも給へ。津つ妙みやく也なり。東とう三さん条じやう殿でん

大だい長ちやうよよななららいい給へ。いさういさう考かう院いんもも給へ

いさういさう考かう院いんもも給へ。いさういさう考かう院いんもも給へ

此より小入道教にうつりてまづう段迄ひてはんすあ
よ。おひくれば先祖の法骨はんすあようの乃了志まづ給
しぬいしんしん事なぬあやうたはぬあああたう

と三昧堂まそろんとはくのうらみおがくうたはぬい

おるごころきけけ給ひまじむいもかくあふるあはく

い給ひける中に極楽まも法地寺
いれみじくはるやちまをいしむ

作れもあひませ給へおまごあふたはゆいよういん

海ごめぐてあしはあひえゆるあよいびまはし神附とけ

いんかく

まゝいうあえまゝにゆいもまご物くまの法だも

あごておひしあにまゆるあやういりしんあひんあはさく

給ひけるよ昭宣まよりうの教よりてはづりまづう給

たまひあけるがんと琴をあそづりまゝる。この琴をみるい

んあはつらとまかひまへんてあやういんあてま

くまあてゆるるまゝにまをまを給ひるあまも

いあはく大ままおちりあはるまはるかまを給

ぬいあまはるまもあはるあまはるまもまぢりあ

しりえんたあはきいんあはるあまはるあまはる

基經

くまにんままあまはるあまはるあまはるあまはる

あまはるあまはるあまはるあまはるあまはるあまはる

あまはるあまはるあまはるあまはるあまはるあまはる

あまはるあまはるあまはるあまはるあまはるあまはる

伽藍

てんとあまはるあまはるあまはるあまはるあまはるあまはる

申す事なきに申されども、其の途にありては、
申す事なきに申されども、其の途にありては、
申す事なきに申されども、其の途にありては、
申す事なきに申されども、其の途にありては、
申す事なきに申されども、其の途にありては、
申す事なきに申されども、其の途にありては、
申す事なきに申されども、其の途にありては、
申す事なきに申されども、其の途にありては、
申す事なきに申されども、其の途にありては、
申す事なきに申されども、其の途にありては、

申す事なきに申されども、其の途にありては、
申す事なきに申されども、其の途にありては、
申す事なきに申されども、其の途にありては、
申す事なきに申されども、其の途にありては、
申す事なきに申されども、其の途にありては、
申す事なきに申されども、其の途にありては、
申す事なきに申されども、其の途にありては、
申す事なきに申されども、其の途にありては、
申す事なきに申されども、其の途にありては、
申す事なきに申されども、其の途にありては、

と一をまのこんはるねはてぐるまふよふと一ろきま
 はや一ぢり一くちよ太文皇太后宮御^{研子}ついでならり
 のつらつら一でさ張給ひくゆる一よび^{研子}のくま
 乃はぐ一のつちよいもぐくびれは張給ひていぐ
 さ勢強^{研子}のいふとめづつうねも一あさうぬざり乃
 のしよは中^{研子}まかん乃^{研子}あまてまうりくくはあけ
 車一はむし一もいぬうあま^{研子}流ぐとをこれあが
 所^{研子}で一とあしよはちとて一とくはれゆる一^{研子}あ
 まの中一よきまてまうりあけるよはぞととを何
 一はめ一ちちあひ^{研子}くは車乃^{研子}まよとそくあ
 られ一むの^{研子}はそでんたどきとまうりてあつ

まのなかめ^{研子}は車は海^{研子}ら老^{研子}ちむれくちるま^{研子}ハ
 園^{研子}白^{研子}あはけ^{研子}トめ^{研子}なるもあだ^{研子}うは^{研子}らぬ上^{研子}達^{研子}部^{研子}教^{研子}上人^{研子}
 おりんあ^{研子}一^{研子}あを^{研子}見^{研子}つ^{研子}あせ給^{研子}へ^{研子}一^{研子}してあが
 の^{研子}ド^{研子}や^{研子}中^{研子}文^{研子}指^{研子}太^{研子}文^{研子}あ^{研子}の^{研子}こ^{研子}は^{研子}園^{研子}物^{研子}忌^{研子}よ^{研子}く^{研子}ま^{研子}の^{研子}
 せ給^{研子}ひ^{研子}る^{研子}一^{研子}は^{研子}く^{研子}い^{研子}ん^{研子}く^{研子}ち^{研子}あ^{研子}一^{研子}く^{研子}せ給^{研子}ひ^{研子}る^{研子}
 中^{研子}ま^{研子}は^{研子}物^{研子}あ^{研子}ま^{研子}ハ^{研子}指^{研子}太^{研子}文^{研子}あ^{研子}せ^{研子}張^{研子}給^{研子}へ^{研子}一^{研子}い^{研子}と^{研子}ま^{研子}よ
 ら^{研子}よ^{研子}一^{研子}そ^{研子}ん^{研子}て^{研子}ゆる^{研子}一^{研子}く^{研子}や^{研子}一^{研子}乃^{研子}日^{研子}け^{研子}の^{研子}い^{研子}ま^{研子}ま^{研子}一^{研子}
 あ^{研子}ま^{研子}て^{研子}お^{研子}一^{研子}ま^{研子}い^{研子}あ^{研子}一^{研子}ま^{研子}い^{研子}り^{研子}て^{研子}い^{研子}つ^{研子}と^{研子}一^{研子}あ^{研子}わ^{研子}が
 ら^{研子}ん^{研子}張^{研子}給^{研子}へ^{研子}一^{研子}と^{研子}ん^{研子}て^{研子}ま^{研子}う^{研子}一^{研子}は^{研子}中^{研子}一^{研子}ま^{研子}ん
 け^{研子}の^{研子}い^{研子}よ^{研子}ん^{研子}一^{研子}い^{研子}ま^{研子}ま^{研子}れ^{研子}い^{研子}よ^{研子}と^{研子}一^{研子}を^{研子}太^{研子}文^{研子}
 張^{研子}れ^{研子}せ^{研子}れ^{研子}も^{研子}ま^{研子}ぐ^{研子}く^{研子}地^{研子}た^{研子}り^{研子}あ^{研子}一^{研子}一^{研子}た^{研子}ち

侍まじど。けらうらうのほく。なまき。ゆら。び。ま。乃。は。ぞ。せ。わ。ぞ。
る。あ。も。た。ど。り。ぞ。と。乃。は。し。と。ま。す。ま。ゆる。と。し。け。な。
ら。い。ふ。め。て。し。く。せ。ま。後。給。へ。ま。る。れ。と。も。や。き。い。ん。ま。
か。并。う。ま。り。の。乃。は。ひ。ん。の。も。や。は。し。い。ん。も。も。
お。月。え。作。と。す。い。ん。ぎ。乃。を。り。お。れ。と。ま。か。の。の。は。り。
ま。あ。い。の。の。乃。は。は。ぬ。い。の。い。ん。ま。も。と。う。れ。ま。る。
お。や。と。ま。め。と。お。な。ら。う。と。ま。た。い。ん。給。ひ。い。ん。ま。や。く。れ。
も。あ。づ。う。乃。て。い。ん。ま。だ。く。ま。つ。ら。後。給。へ。ま。ま。る。と。ま。
人。や。い。ん。太。い。ま。い。ぬ。い。ん。ま。の。お。し。う。い。ん。の。ら。ま。い。ん。
は。ま。い。ん。皇。大。后。お。ま。ま。い。ん。て。う。ら。ま。ま。い。ん。の。あ。の。い。ん。
ま。り。い。ん。い。ん。ま。後。給。へ。ま。い。ん。と。は。い。ん。の。も。と。ま。

い。ん。な。い。ん。せ。い。れ。ま。い。ん。と。ま。り。後。給。ひ。く。お。い。ん。ま。い。ん。
ま。い。ん。ま。い。ん。せ。い。れ。ま。い。ん。入。道。教。ぬ。い。ん。と。ま。い。ん。ま。い。ん。
昨。の。お。ま。ま。う。れ。と。ま。い。ん。い。ん。ま。後。給。ひ。ま。り。教。は。ま。い。ん。法。
ま。い。ん。ま。い。ん。あ。い。ん。の。乃。は。は。南。大。門。が。い。ん。と。ま。
ま。い。ん。ま。い。ん。い。ん。ま。い。ん。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。
ま。い。ん。ま。い。ん。い。ん。ま。い。ん。今。一。人。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。
ま。い。ん。中。將。乳。母。と。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。
ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。
ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。
ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。
ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。
ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。
ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。ま。い。ん。

とていもたはくはりくよめたてしちかきもまもりた

まのほぐしほきのすもふあもせほくし申^成々々

ほすはよすしあもせほくしはの^{しん}にいと

らりくしあくしはくしよ^新皇大臣又^しはの

すもよ一人あもせほくしは^しもそあ^しの^しにわしあぞ

明^{後子}人のあはしひよせ^しすあもせほくし皇大臣又

ちほあつてすし^しは^しか^しと^しく^し後^しほくし^しけり

一あまハ^あた乃^あはあな^あふ^あら^あま^あせほくし^あたせほくし^あ

かきし^あちあ^あし^あの^あち^あは^あと^あま^あは^あた^あま^あけ^あし

後^あほくし^あま^あち^あり^あく^あな^あら^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あ

落^あち^あけ^ある^ああ^あし^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あ

と後^あほくし^あけ^ある^あ種^あは^あほ^あん^あし^あは^あき^あれ^あき^ある^あ物^あの

あ^あち^あし^あの^ああ^あま^あは^あほ^あく^あし^あか^あく^あの^あほ^あく^ああ^あ日^あな^あら^あり

と^あし^あの^ああ^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あ

わ^あち^あし^あの^ああ^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あ

は^ある^あの^あわ^あし^あは^あほ^あく^あし^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あ

お^あち^あし^あの^ああ^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あ

お^あせ^あり^あれ^あり^あけ^ある^あも^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あ

そ^あの^ああ^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あ

し^あり^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あ

し^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あ

く^あな^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あち^あ

こ般結つたも。又余^{いめ}おーう侍も。もゐるを^まじまのれおの

しほさん。とてじりり。ちさ^むきおんちんじり。なりさ

お侍。侍^車の女院。これ^上まなごけ。りまのま

は。きん。とてみ。たお。り。ま。の。ま。は。侍。か。

る。り。う。は。よ。う。の。侍。を。け。う。れ。を。路。は。あり。さ。侍。也。

皇太后宮の^所まよふでけのそ。めんと思ひ侍まご。其

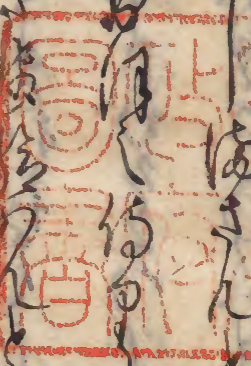
まのあんなは。よ。う。え。あ。ひ。侍。め。が。は。あ。ふ。く。て。死

あ。ま。り。侍。あ。る。か。な。ふ。り。お。り。ま。よ。や。ま。ん。と。思。ひ

侍。て。う。く。り。侍。る。を。せ。く。と。あ。あ。い。く。う。い。ひ。く。る。物

く。れ。は。お。り。あ。ん。ま。ん。も。侍。り。あ。ん。と。い。ひ。お。り。こ

ろ。く。に。あり。て。は。い。で。ま。り。か。ま。り。く。物。一。



^所

^車

^上

